



Ⅰ

東学思想の永世不忘(永世不忘)の人間観に現れたリミナリティ

Liminality in Donghak Yeongsebulmang View of Humanity

研究の概要および目的

本研究は東学思想の人間観に内在する永世不忘思想と、これに伴うリミナリティ様相を検討する。

主要研究の問い

- 東学人間観の変貌過程とリミナリティの哲学的意味
- 超越天概念の介入がもたらした天観・地観・人間観の
- 変化聖一俗関係の再編と自生的近代性の発現様相

研究方法論

- 思想史的文献分析および東学関連の主要な史料の考察
- 『東経大全』、『龍潭遺詞』など主要原典の分析 宗
- 教人類学的リミナリティ概念の適用を通じた解釈学的
アプローチ

この研究は東学思想の人間観が持つ現代的意義と韓国思想史における位置を再照明するのに寄与しようとする。

2/8

東学思想の背景と展開

19世紀韓国の社会宗教的状況

- 性理学中心の支配体制の硬直化
- 西欧列強の侵略と危機意識の高揚
- 西学(西學)の影響と新たな思想的変化
- 民衆の苦痛と貪官汚吏の収奪の深化

東学の形成背景

- 崔濟愚の宗教的体験と「侍天主」思想
- 西洋宗教に対応する「東学(東學)」を提唱
- 儒仏仙三教と差別化された自生的思想体系
- 民衆救済と社会変革の志向

東学教祖の活動

- ♀ 1860 崔水雲 天師問答(天師問答)、東学創道
- ♀ 1864 崔水雲 殉道(殉道)、布徳活動
- ♀ 中断
- ♀ 1860年代後半、崔時亨の『龍潭遺詞』、『東經大全』の復刊
- ♀ 1880年代 教勢の拡張、全国的な布教活動の展開

東学農民運動とその後の展開

- 1894年 東学農民運動:「輔国安民」の旗印
- 日本の介入で失敗、しかし思想的拡散
- 天道教への発展および新宗教運動への影響
- 韓国近代性の自生的経路の提供

永世不忘の人間観の特徴

超越天と吾心即汝心

- 超越天の介入により人間の地位の上昇
- 吾心即汝心(吾心即汝心)人間と上帝の心が通じる
- 天と地の間の人間→天地と同等の存在へ格上げ
- 侍天主(侍天主)を通じて上帝を奉ることのできる地位の確保

不然其然(不然其然)の認識論

理解しがたい超越的世界(不然)と理解可能な経験的世界(其然)の連結を通じた人間の地位の再定立

人間観の変化過程

- 天師問答→布徳活動→殉道(殉道)の過程での変化
- 初期:超越天による地位上昇の強調
- 後期:人乃天(人乃天)概念へと拡張
- 内有神靈(内有神靈)概念による人間内面の神聖化

司祭-信徒区分の撤廃

- 西学の平等思想は認めるが、司祭-信徒間の階級的差異を批判
- 接主制(接主制):司祭と信徒の境界の解消
- 無教会主義的特性:すべての信徒が直接天主と疎通
- 聖-俗の境界の再配置と宗教的平等主義の具現

各自為心vs各知不移

西学の各自為心(各自為心)	東学の各知不移(各知不移)
・天主は外部に存在(表層宗教)	・天主は内部に存在(深層宗教)
・救済の証明 = 俗世の成功	・救済の証明 = 内面の省察的倫理
・西洋近代性の基盤を用意	・自生的近代性の土台を提供

永世不忘(永世不忘)の人間観

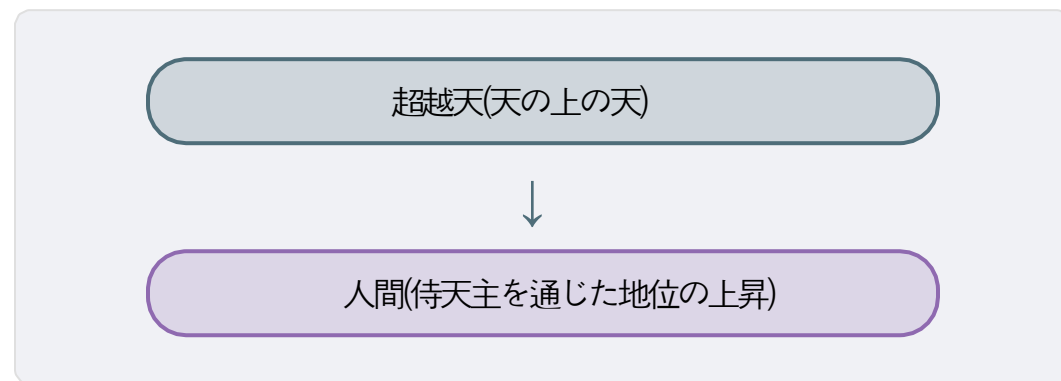
人間が天地化育に参与する存在として、超越的価値を永遠に忘れず実践すべき責任を

内有神靈(内有神靈)天人関係のリミナリティ

侍天主と調和の概念

- 侍天主の「造化」は内有神靈として表現
- 西学の唯一神的天人関係(神尊人卑)の克服
- 「吾心即汝心」を通じた天人合一の境地の復活
- 天の上の天と心で直接連結される人間

天人関係の変化



- 超越天の介入による人間の地位の格上げ、天地
- 化育に参加しうる存在への人間観の変化

身分体系の再編

- 司祭と信徒間の階層の撤廃
- 両班-常民の区別なく天に直接連結
- 接主制(接主制)を通じた宗教的平等の具現
- 「全国民が両班となる」と表現された平等志向

聖(聖)-俗(俗)の再配置

- 既存の聖-俗境界の解体と新たな再配置
- 性理学:両班(聖)と常民(俗)の区別 → 東学:すべての人間の内面に神靈(聖)
- 自生的近代性のリミナリティ(境界性)の発現
- 宗教的地位の上昇が社会変革の原動力へ

外有気化(外有氣化)地人関係のリミナリティ

開闢と調和を通じた地位の変化

- 侍天主思想を通じた地の位相の格上げ再開闢を通じた地上天国実現の構想
- 天地の位階秩序(天尊地卑)から平等な関係(天尊地尊)への変化地上神仙侍天主を悟った人間の新たな位相地の属性の変化拘束抑圧から創造生命の源泉へ
- 下元甲乙を過ぎた好時節の循環思想
- 東学の「造化」概念相反する要素のリミナルな境界統合東方の力西学を超える新たな世界観の提示

社会的階級的境界の解消

- 「全国民が両班となる」身分制解体の宗教的正当化
- 全明淑の東学理念「常民を両班に、賤人を貴くする」
- 王侯将相の欲望東学農民運動参加者たちの内的動機

「本来東学が輔国安民(輔國安民)を主張したのは後天のことを唱えたに過ぎなかったが、心は各自王侯将相(王侯將相)を望みつつ願いを成就できず……」(『典経』)

地上天国と地上神仙の概念

外有気化のリミナリティ様相

リミナリティの社会的発現

反構造性: 伝統的階層秩序から逸脱した空間の形成

コミュニタス: 共同体的实践に基づく社会変革運動

境界超越聖(聖)と俗(俗)の再配置による自生的近代性創造性朝鮮

時代に抑圧された創造的「造化」要素の解放

東学思想と自生的近代性

聖一俗(聖俗)境界の再構成

- 超越天の介入による聖俗秩序の再編侍天主概
- 念を通じた大衆の宗教的主体化司祭-信徒の位
- 階撤廃による宗教的民主化王侯将相となりう
- る宗教的正当性の獲得

リミナリティの变革的特性

- 伝統秩序と新たな秩序の間の境界的位置調和調
- 和を通じた矛盾の融合と克服内有神靈外有気化
- の相互補完的リミナリティ

「東学思想は天の上の天が介入したが、西教とは異なり天の内の天である天地の概念も含んでいたため、一般信徒も天の上の天と心で連結されえた。」

自生的近代性の特徴

- 西欧的近代と異なり宗教的土台に基づく近代化
- 平等思想に基づく身分制の克服と社会変革
- 内的省察と外的実践の均衡の模索
- 侍天主を通じた自生的啓蒙と主体性の確立

東学以降の社会的景響

- 天道教、円仏教など新宗教運動への影響
- 31運動の思想的土台を提供
- 調和と相生の価値の拡散
- 現代韓国社会運動の精神的源流

自生的近代性のリミナリティの意義

東学思想は西欧的近代性と伝統の間に独特なリミナリティ領域を創出し、既存の聖一俗秩序を解体再構成する創造的変革の契機を提供した。これは宗教的平等の価値が社会的平等へと拡張される自生的近代化の道を開いた。

結論および意義

東学思想リミナリティの本質

- 超越天の介入による身分秩序の亀裂と再編
- 侍天主概念を通じた天人合一思想の再活性化
- 内有神霊外有気化の調和を通じた聖-俗境界の再配置
- 地上天国、地上神仙概念を通じた現世変革の志向

永世不忘の人間観の現代的意味

- 人間の尊厳の哲学的宗教的基盤の提供
- 司祭-信徒区分の撤廃を通じた平等思想の実現
- 内的省察と霊的自覚を通じた現代社会批判
- 自生的近代性の韓国的モデルの提示

東学思想の永世不忘の人間観は単なる歴史的遺物ではなく、現代韓国社会においても依然として作動する思想的実践的資源として、人間存在の根源的価値と相互関係性への省察を要求する。

研究の示唆点

- 韓国伝統思想と近代性の連続性の再解釈
- 近代化過程における東学的霊性と倫理観の照明
- 人間観を中心とした東学-儒教-西学の思想的関係の再考
- 東学以降の新宗教運動の系譜学的理解の深化

今後の研究方向

- 初期東学と後期東学の人間観の変化の比較研究
- 東学-大巡思想の人間観比較および相補的解釈
- 現代韓国社会運動に現れた東学的要素の探究
- グローバルな文脈における東学人間観の現代的再解釈